

基本目標4 身近な学びと交流のあるまちをつくるために

施策13 生涯学習のまちづくり

対象	市民	意図	生涯にわたり学習し、学んだことをまちづくりに生かす
施策の方向	市民が生涯を通じて学習に取り組み、いきいきと豊かな人生をおくることができるよう支援するとともに、学んだ成果が市民同士の交流やまちづくりに生かされるよう、生涯学習を振興していきます。		
基本的取組の体系	13-1	学びのきっかけづくり	
	13-2	学べる機会の充実	
	13-3	団体の学びの活動支援	
	13-4	まちづくりへの学びの成果の活用	

生涯学習は、人々が自己の充実や啓発、及び生活の向上のために、必要に応じて各自に適した手段・方法で、自発的意思に基づいて、生涯を通して行う学習のことです。

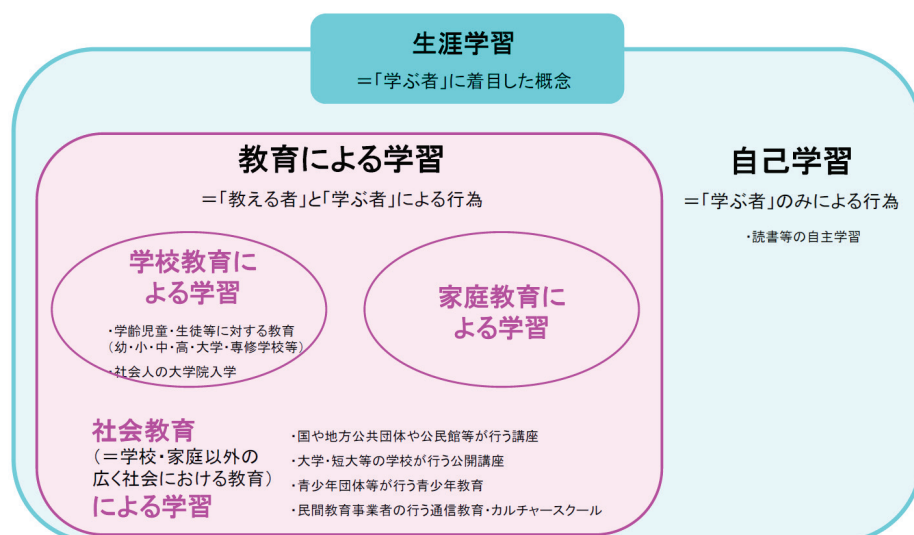
国の第6期中央教育審議会生涯学習分科会が平成25年1月にまとめた議論の整理では、社会教育の成果として、学校教育との連携・協働による地域コミュニティの形成、家庭教育における学習機会の提供と地域人材の育成、多様な学習機会の提供等による生涯学習社会の構築に向けての寄与、といったものが挙げられます。一方で、地域コミュニティ再生への対応が不十分、多様な主体による社会教育事業の展開への対応が不十分、社会教育主事の減少により十分な活動が困難である、といった課題も挙げられています。

生涯学習を振興するには、調布市民が、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができるよう、学習環境を整備するとともに、学習成果を地域社会に還元し、地域社会全体の向上に生かせる環境づくりが必要です。

Column

◆生涯学習と社会教育の違い

- ・社会教育は、学校・家庭以外の広く社会における教育のことを指す。
- ・生涯学習は、家庭教育や学校教育、社会教育、個人の自学自習など、人々が生涯にわたって取り組む学習全般のことを指す。



資料：中央教育審議会生涯学習分科会（第60回）配付資料

「参考資料2 生涯学習・社会教育に関する基礎資料（1）」

平成24年度版文部科学白書

13-1 学びのきっかけづくり

基本計画における基本的取組の主な内容	まちづくり指標 ※指標の数値は基本計画策定時のもの		
	まちづくり指標	現状値（年度）	目標値（年度）
<ul style="list-style-type: none"> ●多様なきっかけづくり ●学びに関する情報提供及び相談の実施 ●だれもが学びやすい環境づくり ●子どもの読書活動に関わる意識啓発 	生涯学習情報システムのアクセス数	61,467件 (H23)	68,000件 (H30)

調布市では、市民が市内のサークル情報やイベント等の情報を簡単に見つけられるよう、「さがす見つけるシステム※」を運用しているほか、「生涯学習ガイドブック」を発行するなどの情報提供を行っています。同時に、シニア世代の学習活動及びまちづくりへの参加の促進を行うため、地域デビュー歓迎会等のきっかけづくりを行っています。近年は、各種講座の実施回数や受講者も増え、市民の生涯学習活動が活発化しつつあります。

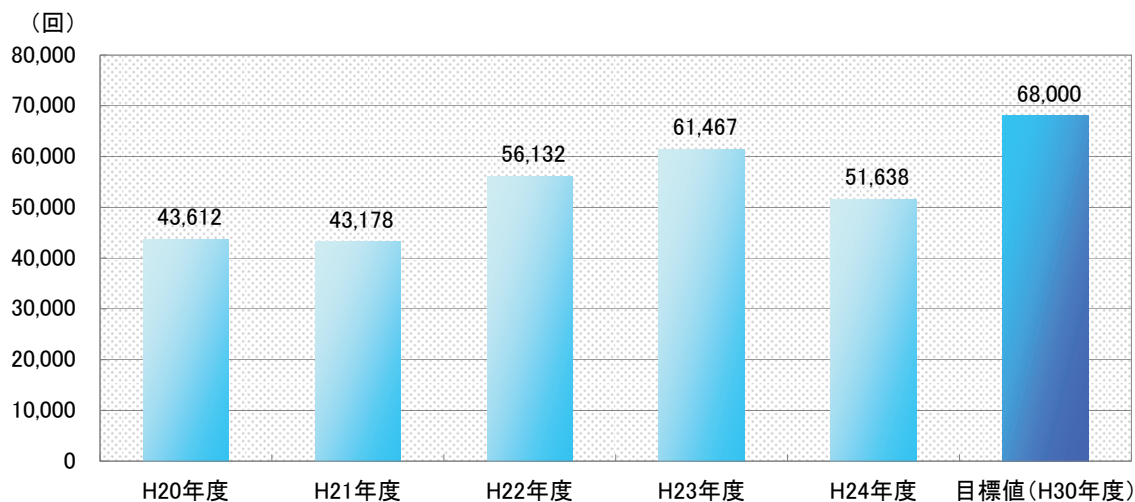
市が平成23年に実施した「調布市生涯学習振興計画策定に向けたアンケート調査」では、生涯学習を試みたい人が多い一方、「忙しい」「きっかけがつかめない」等の理由で実践できない人が多いことが明らかとなっています。様々な世代が参加できるきっかけの提供や、参加しやすい時間帯や形態での講座の実施などにより、学習を行いやすい環境づくりが求められています。

また、様々な手段で生涯学習に関する情報が提供される中、情報提供手段ごとの役割や位置づけを明確にし、効果的な情報提供を行っていくことが必要です。

※さがす見つけるシステム：市民が市内のサークルなどの活動やイベントなどの情報を簡単に見つけられるよう、生涯学習情報・市民活動情報・イベント情報などを共有している調布市のサイト

◆【まちづくり指標】生涯学習情報システムのアクセス数

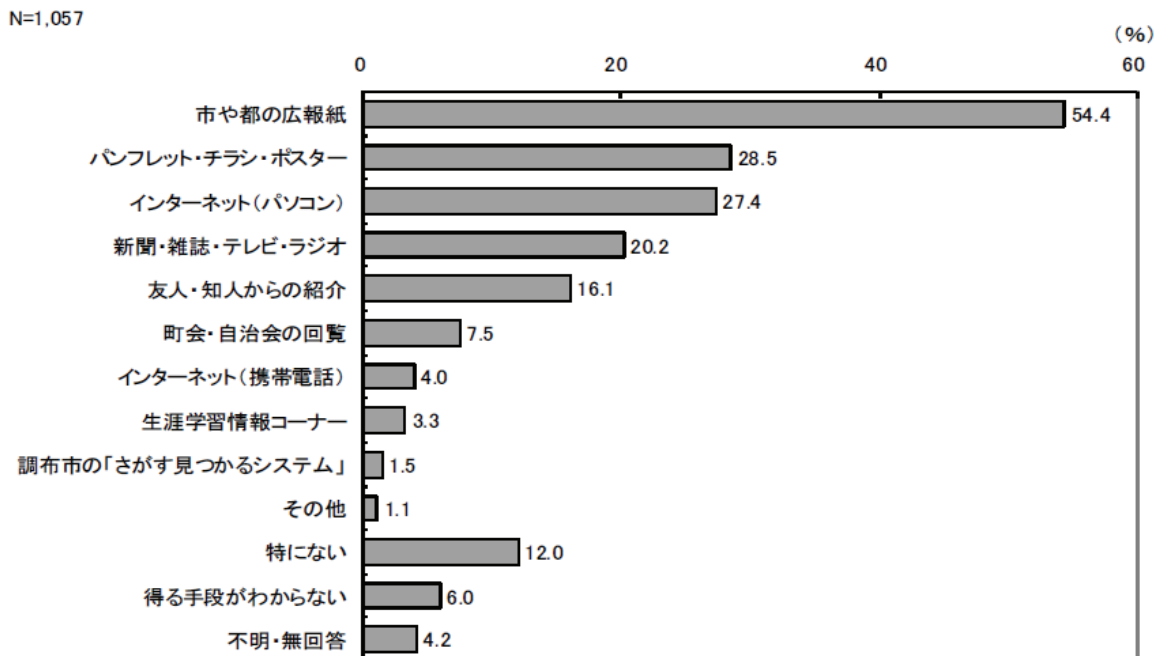
平成20年度から増減幅はあるものの、緩やかに増加傾向であり、さらなるアクセス数増加の取組が必要です



資料：調布市事務報告書（生涯学習交流推進課）

◆生涯学習に関する情報を得る方法

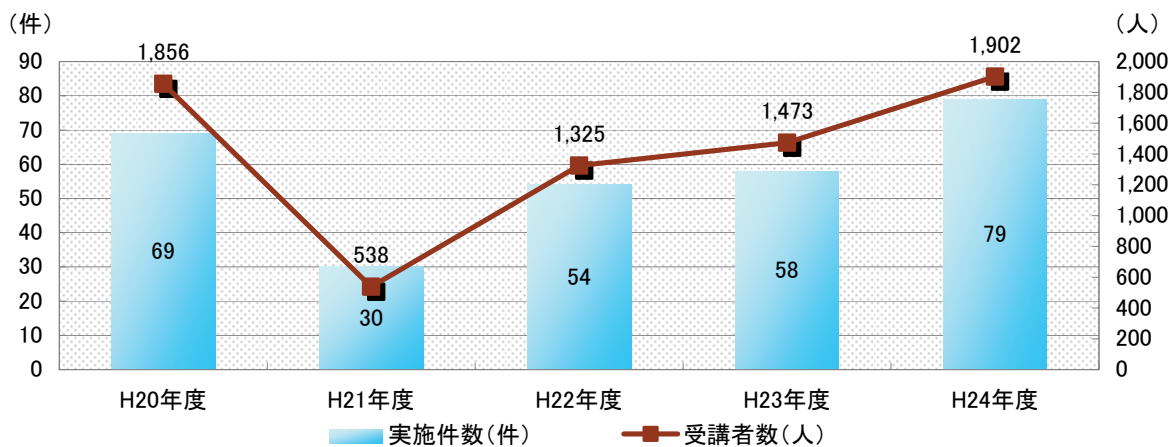
多くの市民が市や都の広報紙から生涯学習に関する情報を得ており、積極的にさがす見つかるシステムの周知を行う必要があります



資料：調布市生涯学習振興計画策定に向けたアンケート調査（平成 24 年 1 月）

◆生涯学習出前講座実施状況

平成 21 年度に実施件数、受講者数とも大きく減少しましたが、以降は実施が増えつつあり、より多くの学習機会が提供・利用されています



資料：調布市事務報告書（生涯学習交流推進課）

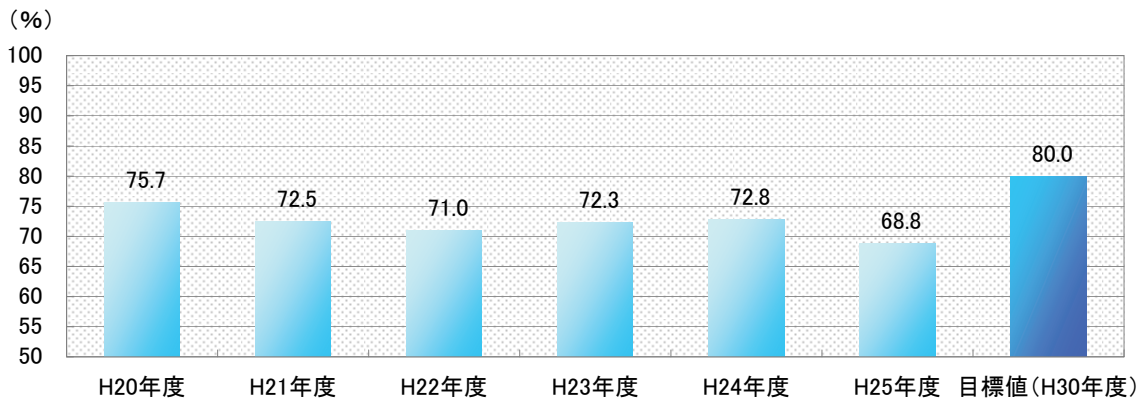
基本計画における基本的取組の主な内容	まちづくり指標 ※指標の数値は基本計画策定時のもの		
	まちづくり指標	現状値(年度)	目標値(年度)
●自己実現につながる学びの推進	公民館や図書館の満足度	72.8% (H24)	80.0% (H30)
●暮らしや地域の再発見につながる学びの推進			
●図書館サービスの提供			

働き方や価値観の多様化等により、市民の生涯学習ニーズは多岐にわたっています。その学習意欲に対応するために、大学、民間企業、自主学習グループ、ボランティア団体など、様々な機関や団体と連携し、市民のニーズや社会情勢に対応した内容を提供するなど、学習の機会の多様化と充実が求められています。

調布市内に11館ある図書館は、市民にとって最も身近な学習の場として市民の学習を支援しています。今後の図書館は、地域の情報拠点としての機能と、読書や交流の場の機能を備えたものであることが期待されます。そのためには、多様な媒体の資料や情報の収集、利用者の課題解決につながる資料や映画・地域資料の充実、学校図書館や他の生涯学習施設等と連携を行う必要があります。

◆【まちづくり指標】公民館や図書館の満足度

満足度は7割程度で推移しています

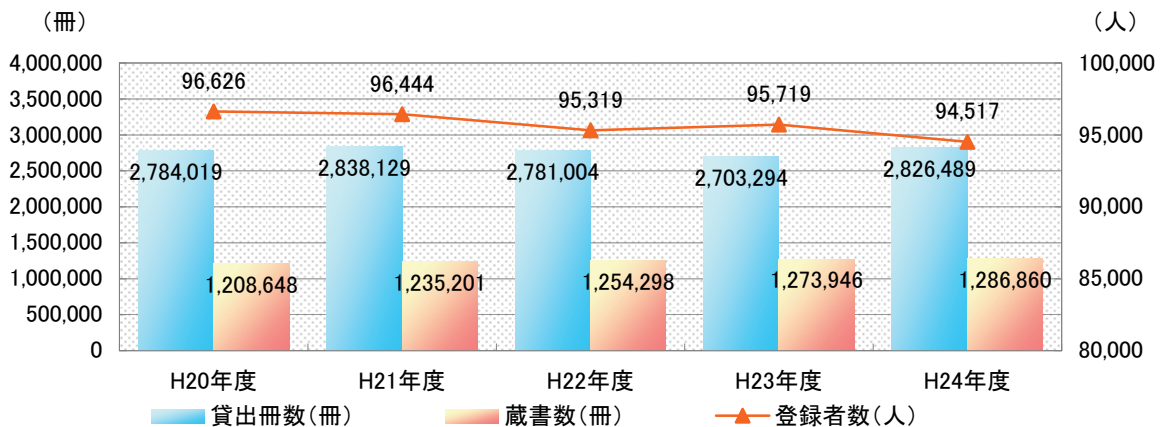


資料：調布市民意識調査

◆図書館の状況（貸出冊数・蔵書数・登録者数）

平成20年度から平成24年度の4年間で蔵書数は78,000冊増加しています

登録者は2,000人ほど減少しましたが、登録者1人当たりの貸出冊数は増加しています



資料：調布市事務報告書（図書館・公民館）

◆市内の図書館の蔵書，登録状況

館名	中央	国領	調和	深大寺	神代	宮の下	緑ヶ丘	富士見	若葉	染地	佐須
蔵書数(冊)	791,882	51,059	49,472	50,081	44,217	43,896	48,975	50,911	51,464	53,172	51,731
有効登録者数(人)	52,437	5,115	5,388	4,159	5,216	3,511	3,970	2,146	4,641	4,425	3,509

資料：調布市事務報告書（図書館）

◆市内の公民館の利用状況

	東部公民館	西部公民館	北部公民館
使用件数(件)	2,299	1,637	3,064
使用人数(人)	34,468	25,075	38,179

資料：調布市事務報告書（公民館）

13-3 団体の学びの活動支援

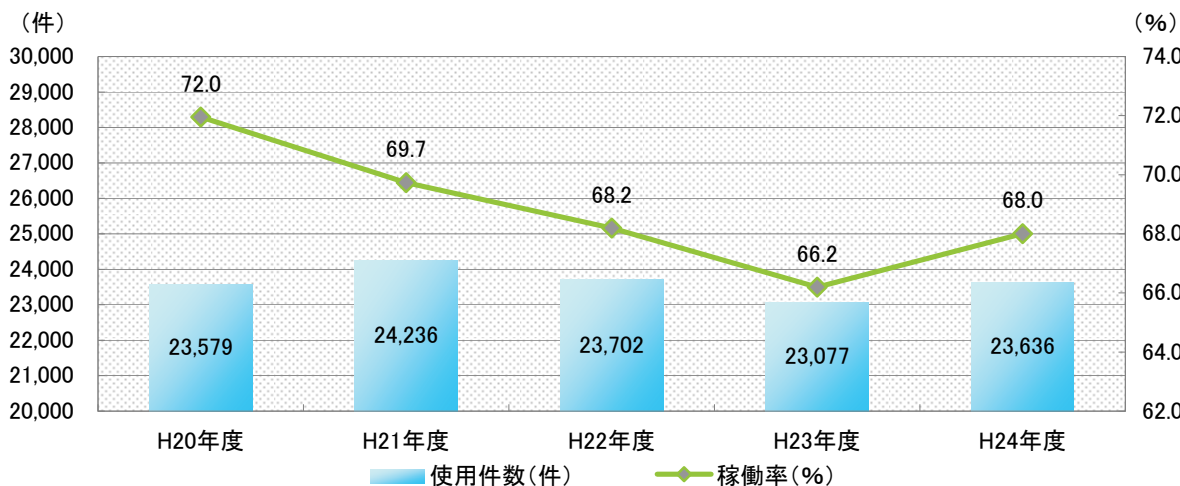
基本計画における基本的取組の主な内容	まちづくり指標 ※指標の数値は基本計画策定時のもの		
	まちづくり指標	現状値(年度)	目標値(年度)
●団体の自主的な活動への支援	生涯学習情報システムの登録団体数	803 団体 (H23)	800 団体 (H30)
●活動場所の確保及び提供			

調布市文化会館たづくりは、市民の芸術・文化や生涯学習活動の拠点として、毎年延べ170万人以上の市民が利用しています。利用件数等は増加していないものの、希望施設の予約が取りにくい状況もみられます。市内の既存施設の有効活用とともに、市内の教育機関や民間企業等との連携を図り、学習できる場を確保していくことが求められています。

調布市では、市内で活躍する生涯学習団体の情報を「さがす見つかるシステム」を通じて市民へ提供しています。会員数の減少や高齢化により活気がなくなっている団体もみられ、活動継続のための支援や各種活動参加へのきっかけづくりなどのコーディネートが求められています。

◆調布市文化会館たづくり 会議室系施設利用状況

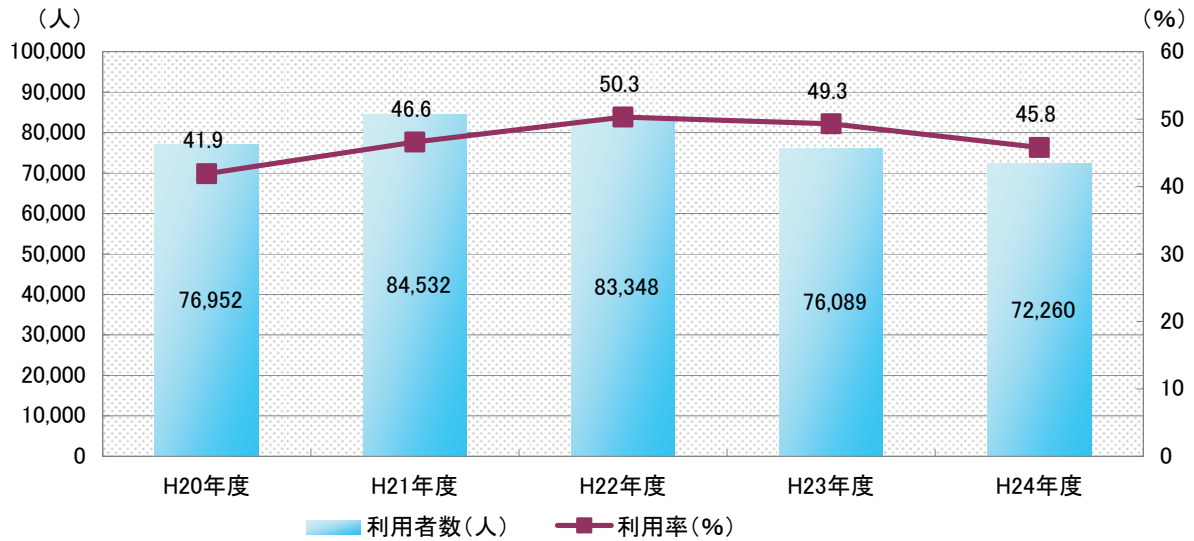
会議室等の稼働率は7割程度で推移しており、特に茶室や調理実習室などの利用率が低いことが要因として挙げられます



資料：調布市事務報告書（文化振興課）

◆市民プラザあくろす利用状況

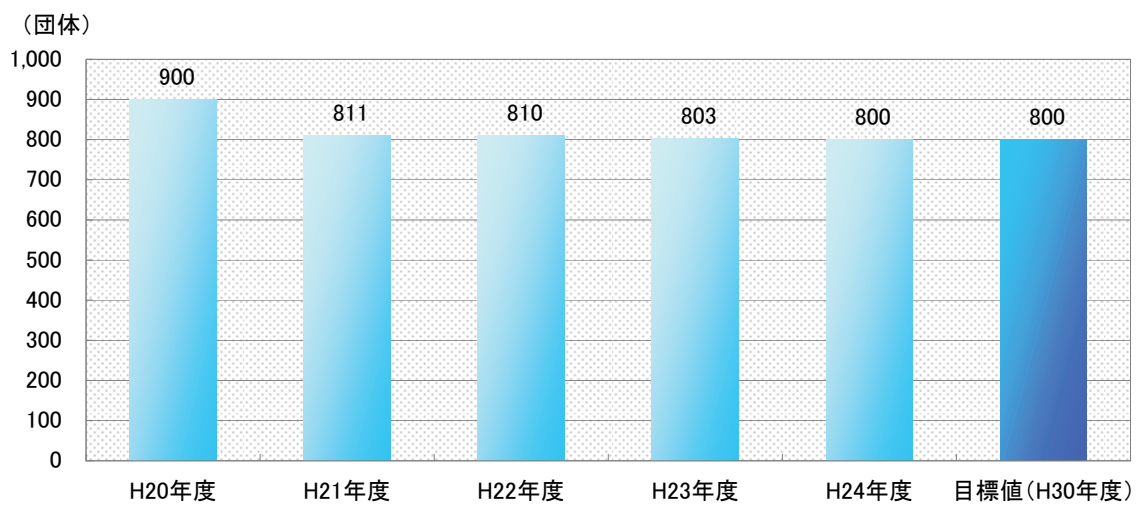
利用者数・利用率は平成 22 年度頃をピークに減少に転じています



資料：調布市事務報告書（男女共同参画推進課）

◆【まちづくり指標】生涯学習情報システムの登録団体数

平成 21 年度以降も目標値である 800 団体を維持しています



資料：調布市事務報告書（生涯学習交流推進課）

※平成 21 年度に、市民活動支援センター登録団体の重複を整理したため、登録団体数が減少している。

13-4 まちづくりへの学びの成果の活用

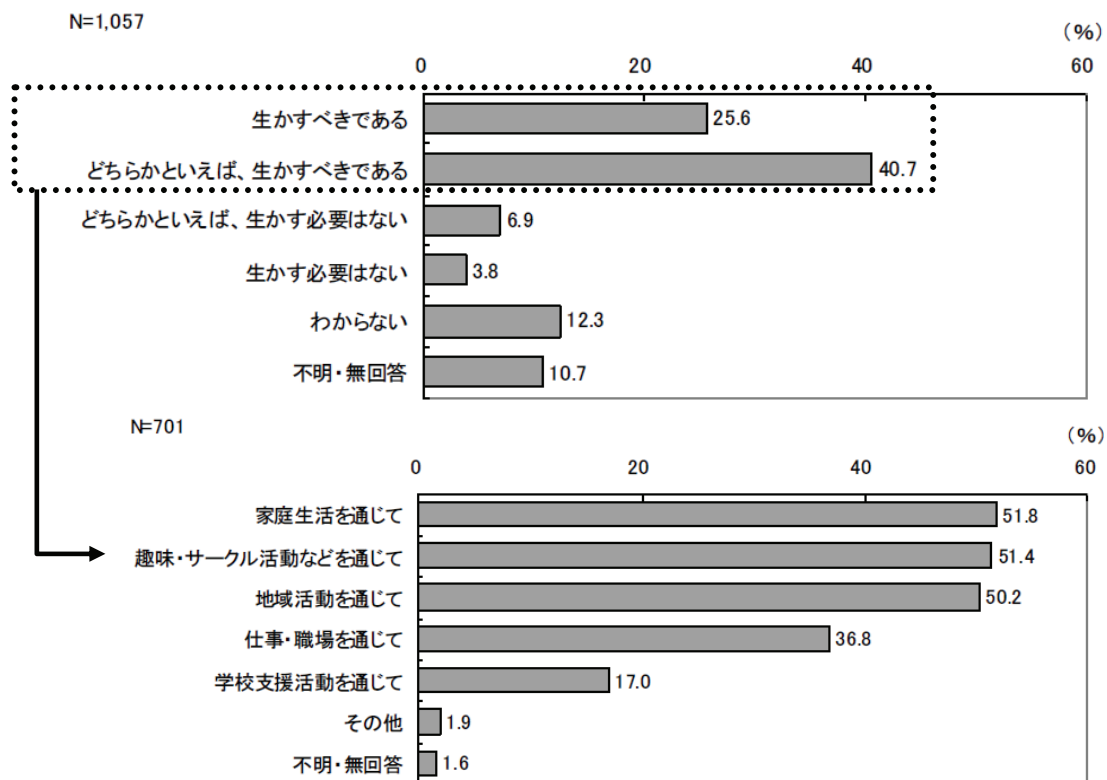
基本計画における基本的取組の主な内容	まちづくり指標 ※指標の数値は基本計画策定時のもの		
	まちづくり指標	現状値（年度）	目標値（年度）
●学びの成果をまちづくりへ生かす機会の提供	学習の成果をまちづくりに生かしている市民の割合	20.1% (H24)	25.0% (H30)

国は、「第2期教育振興基本計画」で、公民館を学校と並ぶ地域コミュニティの拠点として位置付けており、地域の絆・地域コミュニティをつくり上げる役割が期待されています。

調布市民意識調査等の結果によれば、日々の学びの成果を地域で生かすべきと考えながら、それを実現できていない市民もいるとみられることから、公民館は、市民の身近な学習を自らの生活に生かし、その成果を地域の活性化につなげていけるよう、関係機関・団体と連携しつつ、学習成果を発表する機会の提供など、地域の課題解決に向けた支援を行うことが求められています。

調布市は市内・近隣の大学等と順次、相互友好協力協定を締結し、生涯学習やまちづくりの多くの分野で連携を図っています。地域が有する様々な課題を解決していくにあたり、各大学における専門知識や人材等の積極的な活用が期待されます。

◆「生涯学習」を通じて身につけた知識・技能や経験を、自分以外のために生かすべきか 市民の約1/3が、学びの成果を地域活動を通じて生かすべきと考えています

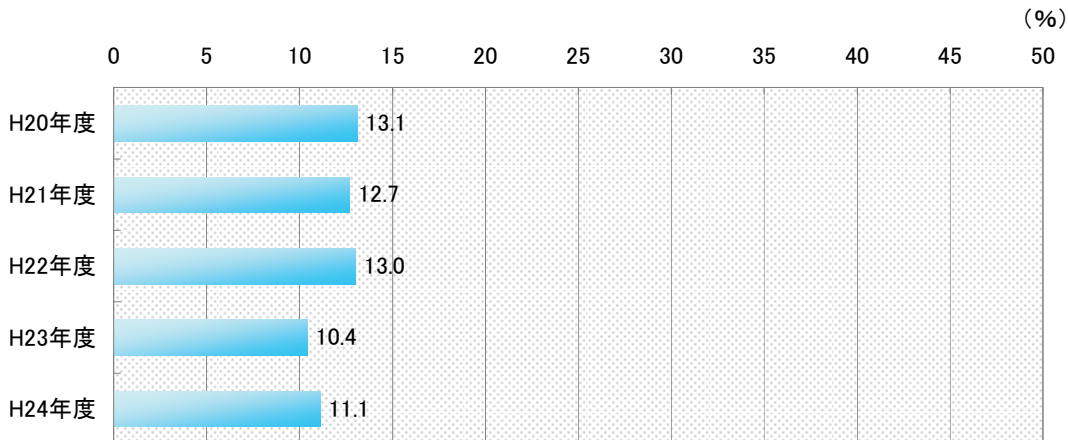


資料：調布市生涯学習振興計画策定に向けたアンケート調査（平成24年1月）

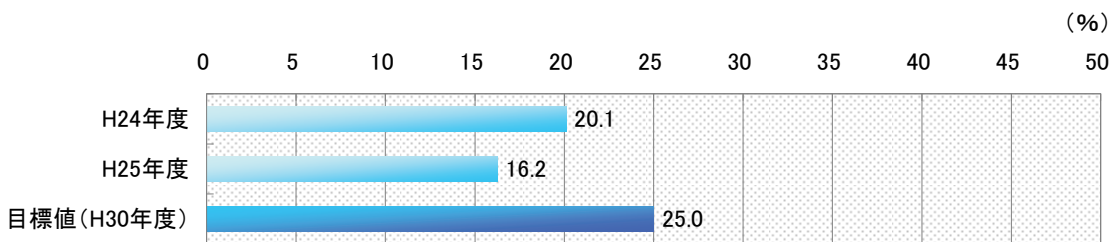
◆【まちづくり指標】学びの成果をまちづくりに生かしている市民の割合

学びの成果をまちづくりに生かしている市民の割合は、「学びの成果を地域活動を通じて生かすべき」と考えている市民の割合を下回っており、約6人に1人とどまっています

問：学習したことをまちづくり活動，コミュニティ活動に活かしていますか。



問：生涯学習を通じて身につけた知識・技能をまちづくりや仲間づくりなど自分以外のために生かしていますか。



資料：調布市民意識調査

Column

◆大学との相互友好協力協定

・調布市は、文化、教育、学術、スポーツなどの分野で援助，協力し相互発展を図ることを目的として、地域の大学と相互友好協力協定を締結しています。

＜協定を締結した大学＞

電気通信大学（調布市調布ヶ丘）	平成 15 年 5 月締結
明治大学（千代田区）	平成 16 年 2 月締結
桐朋学園（調布市若葉町）	平成 16 年 7 月締結
白百合女子大学（調布市緑ヶ丘）	平成 18 年 3 月締結
東京外国語大学（府中市朝日町）	平成 18 年 11 月締結
東京慈恵会医科大学（調布市国領町）	平成 20 年 11 月締結

施策 14 市民スポーツの振興

対象	市民	意図	だれもがスポーツに親しみ、楽しむことができる スポーツを通して交流がはぐくまれる だれもがスポーツを通して心身ともに健康になる
施策の方向	年齢や障害等を問わず、広く市民がスポーツに親しみ、楽しめる環境を整備します。また、スポーツを通して市民の交流が盛んになるまちを目指します。		
基本的取組の体系	14-1	スポーツ環境の整備	
	14-2	ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	
	14-3	FC東京等とのパートナーシップ	

国では、平成22年8月に「スポーツ立国戦略」を策定し、ライフステージに合わせたスポーツ機会の創造や、世界で競い合うトップアスリートの育成・強化などに重点的に取り組んでいます。その体制を整備するため、平成23年8月に、スポーツ振興法からスポーツの推進のための基本的な法律として、スポーツ基本法が施行されました。また、スポーツに関する施策の総合的・計画的な推進を図るため、平成24年3月にスポーツ基本計画が策定されました。

そのような中、地方公共団体にはこれらを踏まえたスポーツの推進が求められており、東京都でもスポーツが都民の日常に溶け込み、スポーツを通じて人々が豊かに暮らせる「スポーツ都市東京」をめざす「東京都スポーツ推進計画」を策定しています。

調布市では、生涯スポーツ社会の実現に向け、スポーツ・レクリエーション環境の充実、市民スポーツ活動の支援、指導者の育成・充実、FC東京とのパートナーシップなどに取り組んでおり、今後も、多くの市民が気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しめる環境づくりに努める必要があります。

Column

【都】東京都スポーツ推進計画を策定—スポーツが都民の日常に溶け込み、スポーツを通じて人々が豊かに暮らせる「スポーツ都市東京」（平成25年3月）

- ・スポーツ祭東京2013以降の新たなスポーツ推進指針として策定。
- ・2020年には、世界に誇る成熟都市の模範として、スポーツが都民の日常に溶け込み、スポーツを通じて人々が豊かに暮らせる「スポーツ都市東京」の実現を目指す。

<主な取組内容>

- ・スポーツ関連情報の発信強化
- ・働き盛り・子育て世代のスポーツ活動への支援など
- ・トップアスリートを指導者として迎えることによる、地域スポーツの推進と次世代のアスリートの発掘・育成
- ・幅広い競技で競技力向上。多様な競技体験による新たな才能を発掘、トップアスリート発掘・育成
- ・科学的データによるテクニカルサポート
- ・スポーツを通じた被災地支援

14-1 スポーツ環境の整備

基本計画における基本的取組の主な内容	まちづくり指標 ※指標の数値は基本計画策定時のもの		
	まちづくり指標	現状値（年度）	目標値（年度）
<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ施設の整備 ●地域スポーツクラブ等の育成・推進 ●スポーツ・レクリエーション情報の提供の充実 ●スポーツ指導者の育成 ●スポーツ祭東京 2013 の開催 	体育施設の年間利用者数	917,001 人 (H23)	920,000 人 (H30)

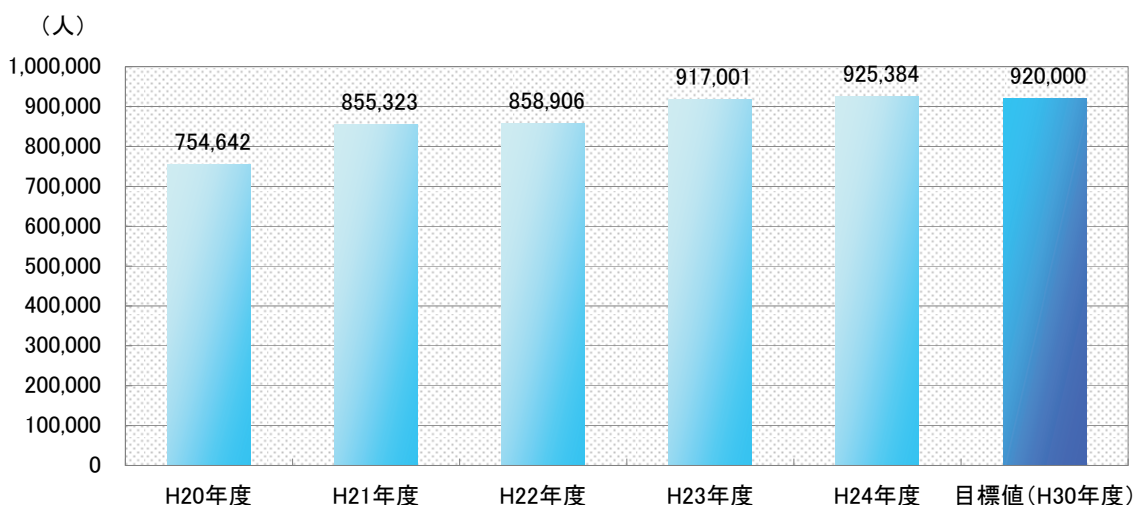
市内には、味の素スタジアムに代表される大規模施設から身近な各地域の施設まで、様々なスポーツ施設が整備されています。また、味の素スタジアム周辺において、東京都が大小アリーナや屋内プールなど総合的なスポーツ施設の整備を進めています。

今後、スポーツ振興を推進していくためには、地域スポーツクラブの育成・推進や、スポーツレクリエーション活動などを支える指導者の育成などのほか、施設の老朽化に対応した計画的な維持管理などの、ソフト・ハード両面から環境整備を進める必要があります。

「スポーツ祭東京 2013（第 68 回国民体育大会・第 13 回全国障害者スポーツ大会）」の開催に当たって組織した市民ボランティアについては、大会終了後も他のスポーツ大会のほか様々な場面での活躍が期待されます。また、調布市開催競技の運営を担う競技団体との連携によるスポーツ振興も期待されます。

◆【まちづくり指標】体育施設の年間利用者数

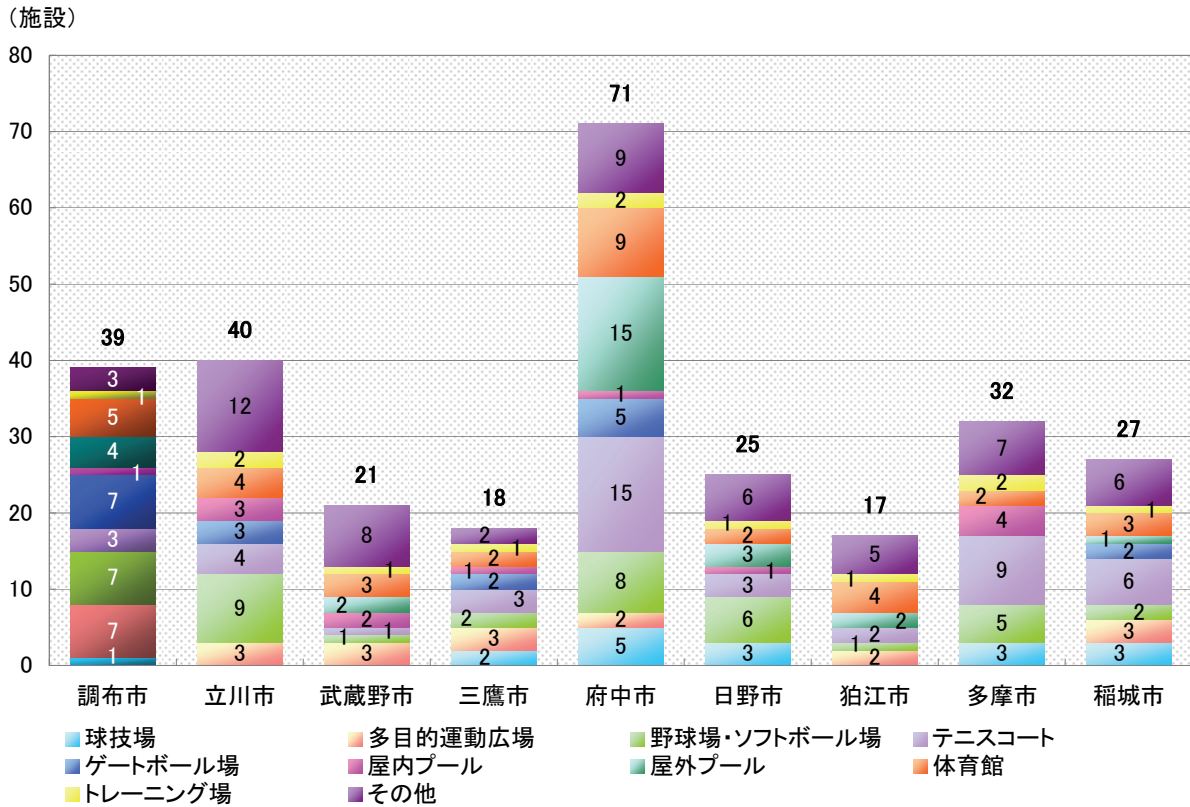
市民 1 人当たり平均年 4 回程度施設を利用しており、利用者は増加が続きます



資料：調布市事務報告書（スポーツ振興課）

◆体育施設数（平成 23 年度比較）

調布市の体育施設数は近隣自治体で 3 番目の多さで、近隣市では府中市が多くの施設を有しています



資料：東京都スポーツ振興局スポーツ事業部調整課 「東京都における公立スポーツ施設 平成 23 年度版」
 ※多摩地域 26 市における上位 8 施設を記載し、それ以外の施設は「その他」に分類（但し、野球場・テニスコートは異なる分類を 1 つに統合）。

14-2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

基本計画における基本的取組の主な内容	まちづくり指標 ※指標の数値は基本計画策定時のもの		
	まちづくり指標	現状値（年度）	目標値（年度）
●だれもがスポーツに参加できる機会の充実	運動を週に 1 回以上行っている市民の割合	60.0%	70.0%
●地域における子どものスポーツ機会の確保		(H24)	(H30)
●次世代アスリートの発掘・支援			

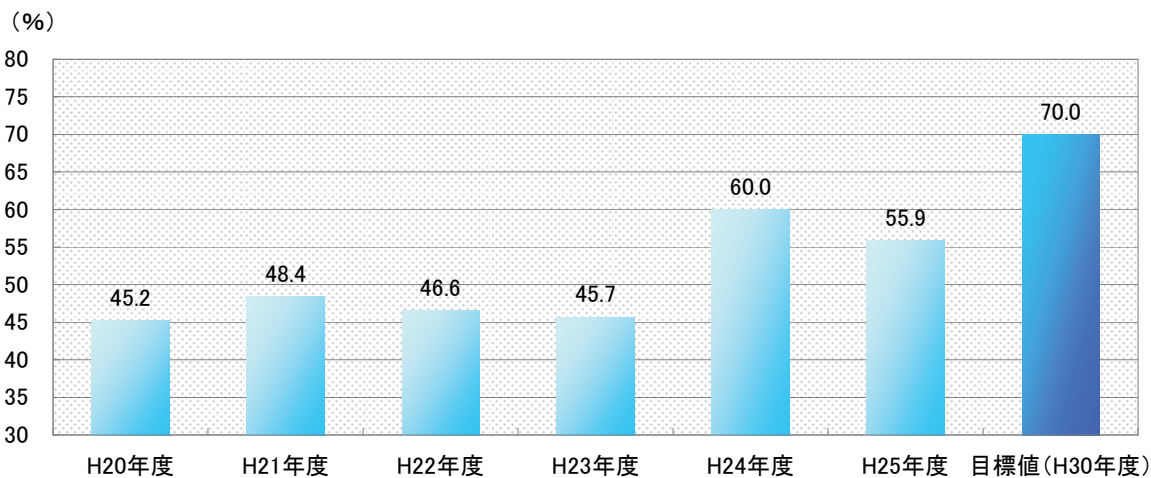
子どもが安心して外で遊べる場所が少なくなり、児童・生徒の体力低下が問題とされ、また高齢化に伴い健康維持の重要性が高まるなど、障害を持っている人を含め各ライフステージにおいて運動を習慣づけていくことが重要となっています。

調布市が実施しているスポーツ関連事業等の参加者数は横ばいですが、市民個々でスポーツをする習慣が定着しつつあります。今後、より多くの市民が日頃からスポーツを実践できるよう、世代や能力に応じたスポーツを始めるためのきっかけを提供していくことが望まれます。

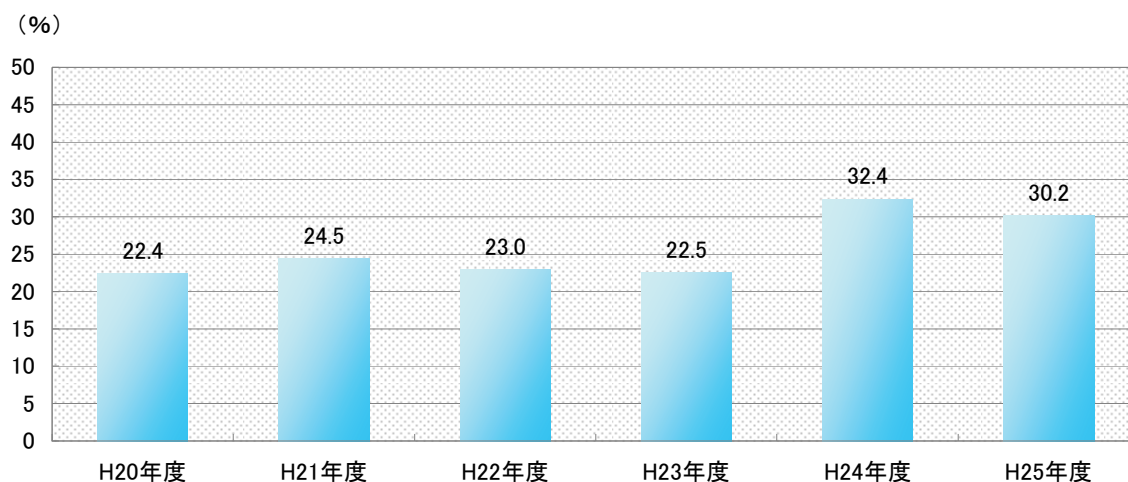
◆【まちづくり指標】運動を週に1回以上行っている市民の割合

平成24年度から、運動を週に1回以上行っている市民が半数を超え、30分以上の運動を週に2回以上行っている市民も3割を超えるなど、市民におけるスポーツの習慣が定着しつつあります

運動を週に1回以上行っている市民の割合



30分以上の運動を週に2回以上行っている市民の割合



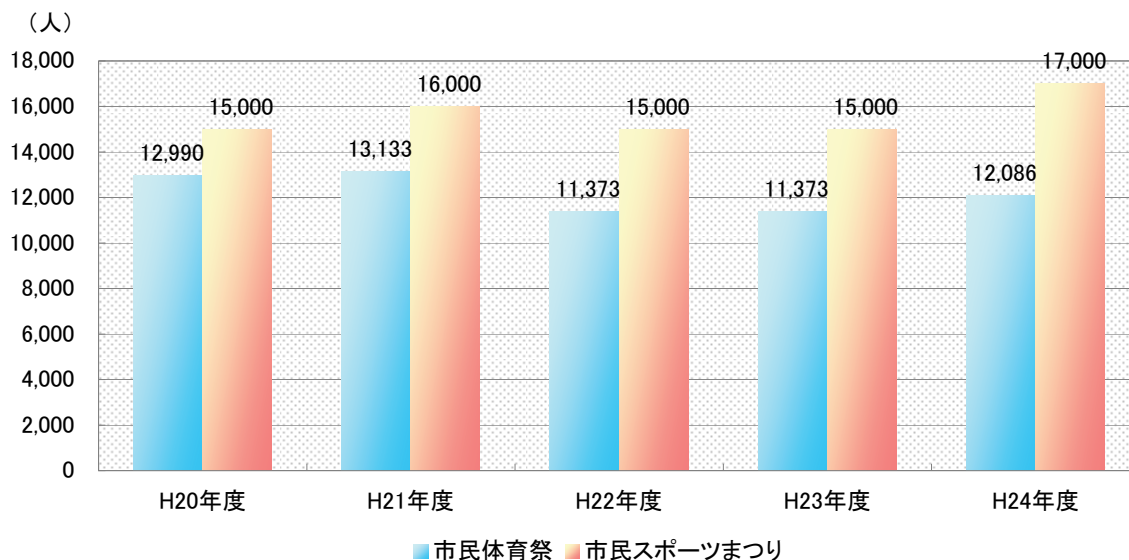
資料：調布市民意識調査

※平成24年度版の調査からは、設問に「(例えば積極的に体を動かすことは仕事帰りに駅一つ分歩くことや、積極的な階段利用等も含めます。)」の文章を追加

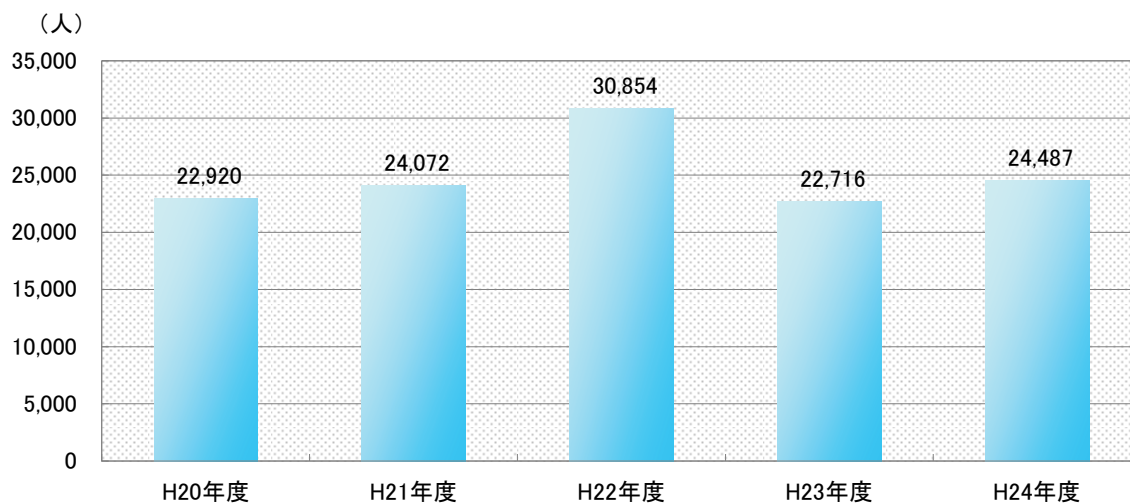
◆スポーツイベント、スポーツ振興事業の参加者数

各事業・イベントでの参加者数は安定して推移しています

スポーツイベントの参加者数



スポーツ振興事業（リフレッシュ健康体操※）参加者数



資料：調布市事務報告書（スポーツ振興課）

※リフレッシュ健康体操：日ごろ運動する機会が少ない成年以上の市民を対象に、運動するきっかけづくりとして行うプログラムで、ウォーキング、フロアーエクササイズ、リズム体操、ストレッチなど、自宅で行えるような方法を学ぶ。1コース90分。

なお、平成22年度の利用者が他の年度に比べ多いのは、大規模施設でのプログラムを実施していたためである。

14-3 FC東京等とのパートナーシップ

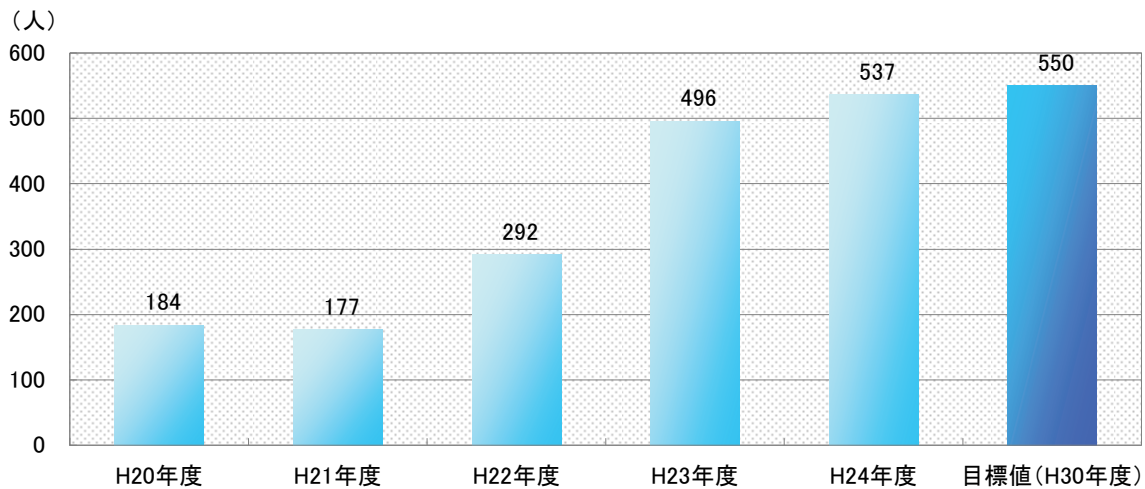
基本計画における基本的取組の主な内容	まちづくり指標 ※指標の数値は基本計画策定時のもの		
	まちづくり指標	現状値（年度）	目標値（年度）
●FC東京との協働のまちづくり			
●地域ゆかりのチームや選手を通じたスポーツ振興	FC東京等と連携したスポーツ事業の参加者数	496人 (H23)	550人 (H30)

FC東京※は、調布市と連携して小学校へのキャラバン隊サッカー教室や知的障害児向けサッカー等の教室、講習会などを数多く実施しています。市民にとってはプロの技術を間近で見ることができ、多くの夢と希望を与えてくれています。今後も地域にゆかりのあるチームや選手を応援し、市民がスポーツに親しむ機会づくりや交流をより充実させていくことが求められます。

※FC東京：調布市西町の味の素スタジアムをホームグラウンドとしているプロサッカーチーム。

◆【まちづくり指標】FC東京等と連携したスポーツ事業の参加者数

平成21年度からの3年間で参加者は3倍以上に増加し、市民にとってプロスポーツチームが身近な存在になりつつあります



資料：調布市事務報告書（スポーツ振興課）